

4 出来形管理

4 出来形管理

(1) 出来形管理基準

この出来形管理基準は、森林土木工事施工管理基準 1 総則(5)の(ウ)に規定する出来形管理の基準を定めたものである。

(2) 出来形管理の方法

(ア) 出来形管理図表による管理

・出来形管理基準に明示する管理項目、測定基準に基づき出来形図、設計値と測定値及びその差を表示した図表(標準4)を作成する。

・出来形管理基準に明示する次の主要管理項目で測定数が20点以上の場合、及び、監督職員の指示する管理項目については、工程能力図(標準-5)を作成する。

主 要 管理項目 { 水路, 道路, 防潮堤, 舗装等の基準高及び幅
舗装面と接触する構造物(擁壁, ブロック積(張), 側溝等)の基準高 }

(イ) 出来形図による管理

寸法について、設計図面を利用して設計値と測定値を対比した図を作成する。

(ウ) ヒストグラムによる管理

測定値が40点以上で監督職員の指示がある場合、ヒストグラムを作成して平均値等を求め、規格値に対する偏差の状況を調べる。

(エ) 保安林整備事業の管理

保安林整備事業の管理については、様式1～5を用いるものとする。

(オ) 一施工箇所取り扱い

一施工箇所とは、各工種の一ブロックをいう。ただし、一ブロック内でも形状、寸法、規格等が変わる場合は、変わることにより一施工箇所とする。

(3) 出来形管理資料のまとめ方

出来形管理資料は、原則としてA4判とする。

(4) その他留意事項

当基準に記載のないもので、鹿児島県土木部「土木工事施工管理基準」に記載のある工種は、当該施工管理基準を適用する。

なお、当基準に記載のない木製構造物については、林野庁「森林整備保全事業施工管理基準」を適用する。

出来形管理の測定項目及び規格値

目 次

1	共通工	1 石・ブロック積工	4-4
		2 擁壁工（現場打擁壁工，プレキャスト擁壁工，補強土壁工）	4-4
		3 水路工（現場打水路工，側溝工，集水枘，張芝水路工，素堀側溝）	4-4
		4 カルバート工（プレキャストカルバート工，現場打カルバート工）	4-6
		5 排水施設工（洗越工）	4-6
		6 落石防止工（落石防止網工，落石防護柵工，鋼製落石防護柵工）	4-6
		7 植生工（種子吹付，客土吹付，植生基材吹付）	4-8
		8 かご工（ふとんかご）	4-8
		9 吹付工（モルタル，コンクリート，特殊モルタル）	4-8
		10 法枠工（現場打法枠工，現場吹付法枠工，プレキャスト法枠工）	4-8
		11 標識工（小型標識工）	4-8
		12 路側防護柵工（ガードレール）	4-8
		13 基礎工（一般事項，コンクリート，既製杭工，矢板工）	4-10
		14 アンカー工	4-10
		15 暗渠工	4-10
		16 鉄筋	4-10
2	治山	1 治山共通工（延長，平面形，横断形）	4-12
		2 治山ダム工（本堤，副堤，側壁，水叩）	4-12
		3 流路工	4-12
		4 鋼製ダム本體工	4-12
		5 山腹工	4-14
		6 防潮工	4-14
		7 根固工	4-14
		8 消波工	4-14
		9 高エネルギー吸収柵工	4-14
		10 固定工	4-14
3	道路工	1 道路工	4-16
		2 アスファルト舗装	4-16
		3 コンクリート舗装	4-18
		4 アスカーブ	4-18
		5 区画線	4-18

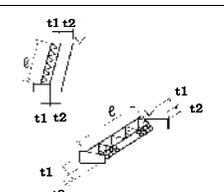
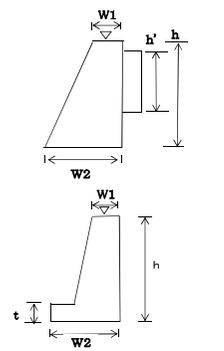
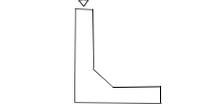
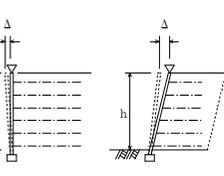
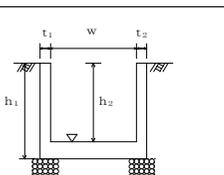
4	保安林整備	1	森林整備	4-20
		2	歩道	4-22
		3	自然林造成, 改良, 森林造成, 林相改良	4-22

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値	
共通	石・ブロック積(張)工 コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積み) (コンクリートブロック張り)	基準高▽	±50	
		法長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$	-50
			$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
		厚さ(ブロック積張) t_1	-50	
		厚さ(裏込) t_2	-50	
		延長 L	-200	
	共通	現場打擁壁工	基準高▽	±50
			厚さ t	-20
			裏込厚さ	-50
			裏込高さ	$h' < 3\text{ m}$
$h' \geq 3\text{ m}$				-100
幅 w_1, w_2			-30	
延長 L			-200	
高さ h			$h < 3\text{ m}$	-50
		$h \geq 3\text{ m}$	-100	
擁壁工		プレキャスト擁壁工	基準高▽	±50
	延長 L		-200	
工	補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高▽	±50	
		高さ h	$h < 3\text{ m}$	-50
			$h \geq 3\text{ m}$	-100
		鉛直度 Δ	±0.03 hかつ±300以内	
		控え長さ	-0	
		延長 L	-200	
	部材数	-0		
水路工	現場打(組立)水路工	基準高▽	±30	
		厚さ t_1, t_2	-20	
		幅 w	-30	
		高さ h_1, h_2	-30	
		延長 L	-200	

出来形 4 - 4

単位: mm

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。		基礎は、コンクリート 基礎工を適用 測定結果表(標準4) 出来形図 (設計図面の寸法表示箇所(法勾配合等)に朱書きで測定値を記入)
1施工箇所毎。天端前面で測定。		
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4) 出来形図 (設計図面の寸法表示箇所(法勾配合等)に朱書きで測定値を記入)
1施工箇所毎。天端前面で測定。		
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4) 出来形図
1施工箇所毎。		
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4) 出来形図
1施工箇所毎。		
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4)
1施工箇所毎。		

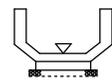
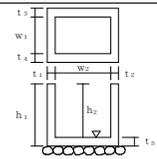
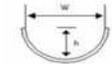
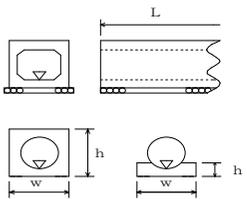
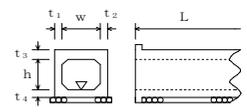
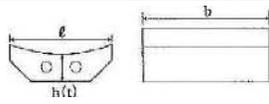
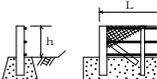
出来形 4 - 5

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値		
共	水路工	側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝)	基準高 ∇	± 30	
			延長 L	-200	
	集水枘	基準高 ∇	± 30		
		※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20		
		※幅 w_1, w_2	-30		
		※高さ h_1, h_2	-30		
	張芝水路工	幅 w	-100		
	植生袋水路工	深さ h	-50		
		延長 L	-200		
		素掘側溝	高さ h	-50	
		幅 b	-50		
		延長 L	-200		
	通	カルバート工	プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高 ∇	± 30
				※幅 w	-50
			※高さ h	-30	
			延長 L	-200	
現場打カルバート工		基準高 ∇	± 30		
		厚さ $t_1 \sim t_4$	-20		
		幅(内法) w	-30		
		高さ h	± 30		
		延長	L < 20m	-50	
		L	L \geq 20m	-100	
排水施設工	洗越工	延長 ℓ	-200		
		幅 b	-30		
		高さ(厚さ) h, t	-50		
工	落石防止網工	幅 w	-200		
		延長 L	-200		
		アンカー引抜力	設計値以上		
	落石防止工	落石防護柵工 (ストンガード)	高さ h	± 30	
			延長 L	-200	
		鋼製落石防護柵工 (I型, λ 型)	基準高 ∇	± 50	
			延長 L	-100	
		高さ h	-30		

出来形 4 - 6

単位: mm

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4)
1施工箇所毎。		
1箇所毎。 ※は、現場打部分のある場合		測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打のある場合。		測定結果表(標準4) 出来形図
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。		測定結果表(標準4) 出来形図
全箇所。 断面、形状の変化点で測定。		測定結果表(標準4) 出来形図
1施工箇所毎。		出来形図
アンカー10本に1本の割で測定する。		測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4)
1施工箇所毎。		
図面の表示箇所にて測定 コンクリート基礎がある場合は、コンクリート土留工による。		測定結果表(標準4)

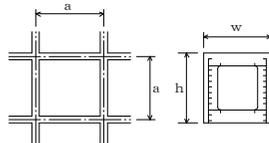
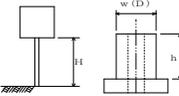
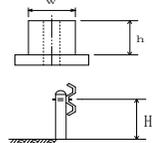
出来形 4 - 7

出来形管理の測定項目及び規格値

区 分	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
共 通	植生工 (種子吹付工) (張芝工) 生ネット工) (人工張芝工)	面 積 (㎡)	-0		
		厚 さ	平均厚さ ≧ 設計厚さ		
			但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上		
	植生工 (植生基材吹付工)	面 積 (㎡)	-0		
		厚 さ t	t < 5 cm	-10	
			t ≧ 5 cm	-20	
			但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。		
	かご工 (ふとんかご)	高 さ	-100		
		延 長	-200		
	吹付工	吹付工 (モルタル) (コンクリート)	面 積 (㎡)	-0	
			厚 さ t	t < 5 cm	-10
				t ≧ 5 cm	-20
特殊モルタル吹付工 (A, B)		吹付量 6 k g	50g以上/平均		
		吹付量 10 k g	83g以上/平均		
		面 積 (㎡)	-0		
法枠工	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	面 積 (㎡)	-0		
		幅 w	-30		
		高 さ h	-30		
		吹付枠中心間隔 a	±100		
	法枠工 (プレキャスト法枠工)	面 積 (㎡)	-0		
標識工	小型標識工	幅 w (D)	-30		
		高 さ h	-30		
		根 入 れ 長	-0		
路側防護柵工	路側防護柵工 (ガードレール)	基 礎	幅 w	-30	
			高 さ h	-30	
		ビーム取付高 H	+30		
			-20		

出来形 4 - 8

単位: mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 施工箇所毎。		出来形図
施工面積200㎡につき1箇所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		出来形図
1 施工箇所毎。		出来形図
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表 (標準4) 出来形図
1 施工箇所毎。		出来形図
200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。		測定結果表 (標準4) 出来形図
吹付マット (10cm×10cm) により測定し100m ² に1枚の割合で測定する。ただし、1施工箇所に10枚以上。		測定結果表 (標準4) 出来形図
1 施工箇所毎。		出来形図
200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所を測定。		測定結果表 (標準4) 出来形図
1 施工箇所毎。		出来形図
基礎 1 基毎。		測定結果表 (標準4)
1 箇所/施工延長40m。 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。		出来形図
1 箇所/1 施工箇所。		測定結果表 (標準4)

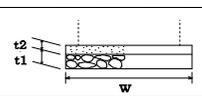
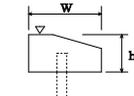
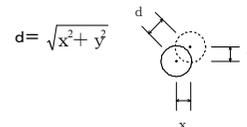
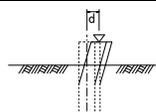
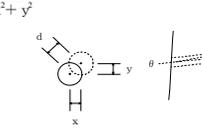
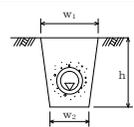
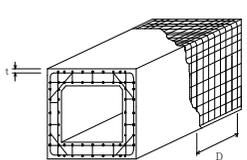
出来形 4 - 9

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値	
共	基礎工	一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	-0
			厚さ t_1, t_2	-30
			延長 L	各構造物の規格値による
		コンクリート基礎工 (現場打)	基準高 ∇	± 30
			幅 w	-30
			高さ h	-30
		延長 L	-200	
	基礎工	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高 ∇	± 50
			根入長	-0
			偏心量 d	D/4以内かつ 100以内
			傾斜	1/100以内
	基礎工	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅型鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 ∇	± 50
根入長			-0	
変位 d			100	
アンカー工	アンカー工	削孔深さ	-0	
		配置誤差 d	100	
		せん孔方向 θ	± 2.5 度	
暗渠工	暗渠工	幅 w_1, w_2	-50	
		深さ h	-30	
		延長 L	-200	
鉄筋	鉄筋の組立て	平均間隔 d	$\pm \phi$	
		かぶり t	$\pm \phi$ かつ 最小かぶり	

出来形 4 - 10

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表 (標準4)
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表 (標準4)
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	測定結果表 (標準4)
基準高は施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表 (標準4)
全数 (任意仮設は除く)	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	測定結果表 (標準4)
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表 (標準4) 出来形図
$d = \frac{D}{n-1}$ D：本間の長さ n：10本程度とする ϕ ：鉄筋径		測定結果表 (標準4) 出来形図

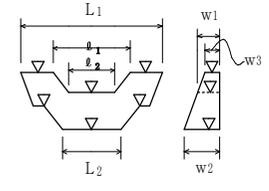
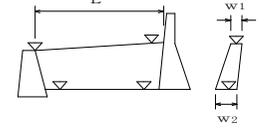
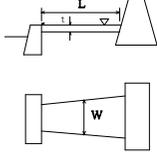
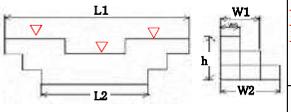
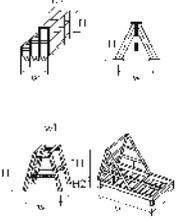
出来形 4 - 11

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値	
治山	治山共通工	延長	測点間距離	±100
			IP 間距離	±200
		平面形	角 度	±30分
			横断形	切土勾配
		盛土勾配		+0度, -1度
	治山ダム工	本堤工 副堤	基準高▽	±30
			天端部 w_1, w_3	-30
			堤 幅 w_2	
			水通しの幅 ℓ_1, ℓ_2	±50
			堤 長 L_1, L_2	-100
		側壁工	基準高▽	±30
			幅 w_1, w_2	-30
			長 さ L	-100
	治山ダム工	水叩工	基準高▽	±30
			幅 w	-100
			厚 さ t	-30
			延 長 L	-100
	流路工	流路工	共通項類似工種を準用	共通項類似工種を準用
鋼製ダム本体工	鋼製ダム本体工(不透過型)	基準高▽	±50	
		延長 L_1, L_2	-100	
		幅 w_1, w_2	-50	
	鋼製ダム本体工(透過型)	堤長 L 格	±50	
		堤長 ℓ 格・B・L	±10	
		堤幅 W 格	±30	
	堤幅 w 格・A・B・L	±10		
	高さ H 格・A・B・L	±10		

出来形 4 - 12

単位: mm

測定基準	測定箇所	摘要
図面の表示箇所にて測定。		出来形図 (設計図面に朱書き)
図面の表示箇所にて測定。		出来形図 (設計図面に朱書き)
図面の表示箇所にて測定。		出来形図 (設計図面に朱書き)
図面の表示箇所にて測定。		測定結果表 (標準 4) 出来形図 (設計図面の寸法表示箇所(法勾配含む)に朱書きで測定値を記入)
1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 長さは、天端中心線の水平延長。		測定結果表 (標準 4) 出来形図 (設計図面の寸法表示箇所(法勾配含む)に朱書きで測定値を記入)
基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所にて測定。		測定結果表 (標準 4) 出来形図 (設計図面の寸法表示箇所に朱書きで測定値を記入)
共通項類似工種を準用		測定結果表 (標準 4)
図面の表示箇所にて測定。		出来形図 (設計図面の寸法表示箇所(法勾配含む)に朱書きで測定値を記入)
備考 格：格子型鋼製ダム A：鋼製スリットダムA型 B：鋼製スリットダムB型 L：鋼製スリットダムL型		

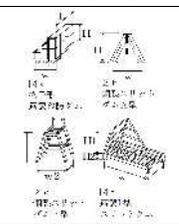
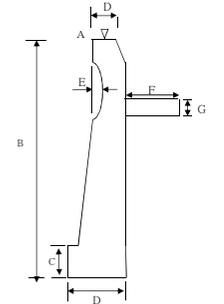
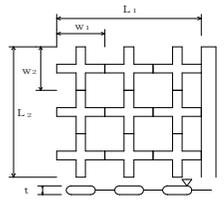
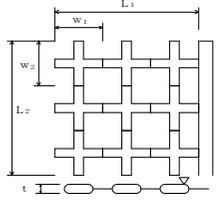
出来形 4 - 13

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値			
治	鋼製ダム本體工	工場製作工 桁制作工(鋼製ダム製作工(仮組立時))	部材の水平度	10		
		堤長 L	±30			
		堤長 ℓ	±10			
		堤幅 W	±30			
		堤幅 w	±10			
		ベースプレートの高さ	±10			
		水平の傾き	±H/500			
	山腹工	柵工, 筋工	延長	-0		
			階段幅	-0		
			高さ	-0		
	防潮工	防潮堤	基準高 A	±50		
			高さ B	h < 3 m	-50	
				h ≥ 3 m	-100	
			厚さ C	-20		
			幅 D	-30		
			波返し曲線 E	±15		
			水叩幅 F	-50		
			水叩厚 G	-10		
延長			-200			
山	根固めブロック工	基準高 ▽	層積	±300		
			乱積	± t / 2		
		厚さ t		-20		
			幅 w ₁	層積	-20	
		w ₂	乱積	- t / 2		
			延長 L ₁ L ₂	層積	-200	
		乱積		- t / 2		
		個数		-0		
		消波工	消波ブロック工	基準高 ▽	層積	±300
					乱積	± t / 2
厚さ t				-20		
幅 w ₁ , w ₂				-20		
延長 L ₁ , L ₂				-200		
個数				-0		
高エネルギー 吸収柵工	高エネルギー吸収柵工	高エネルギー吸収柵工法 各施工マニュアルによる。	高エネルギー吸収柵工法 各施工マニュアルによる。			
固定工	ロープネット工	ロープネット工法各施工 マニュアルによる。	ロープネット工法各施工 マニュアルによる。			

出来形 4 - 14

単位: mm

測定基準	測定箇所	摘要
全数を測定		
全箇所測定。 300mにつき1箇所測定。1施工箇所2箇所以上測定。		平面見取図 測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所, 延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		測定結果表(標準4) 出来形図 (設計図面の寸法表示 箇所(法勾配含む)に朱 書きで測定値を記入)
施工延長40mにつき1箇所, 延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。		測定結果表(標準4) 出来形図
1施工箇所毎。		
施工延長40mにつき1箇所, 延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。		測定結果表(標準4) 出来形図
1施工箇所毎。		
高エネルギー吸収柵工法 各施工マニュアルによる。		測定結果表(標準4)
ロープネット工法各施工マニュアルによる。		測定結果表(標準4) 出来形図

出来形 4 - 15

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値
道 路 工	延長	測点間距離	±100
		I P間距離	±200
	平面形	角度	±30分
	縦断形	基準高	±100 (舗装工±50)
	横断形	幅 (A)	-50
		幅 (B)	-50
		横断勾配 (A) (B)	
		幅 (C)	-50
		幅 (D)	-50
	法 長	法長 < 5m	-200 (-100)
		法長 ≥ 5m	-4% (-2%) () は盛土
	法 勾 配		-1:0.05
	路盤工 (コンクリート路面工除く)	幅	-50
		厚み	-25
	コンクリート路面工 (路床)	基準高	±50
		幅	-50
コンクリート路面工 (路盤)	幅	-50	
	厚み	-30	
コンクリート路面工 (表層)	幅	-25	
	厚み	-10	
	橋 梁 工	土木部の「土木工事施工管理基準」を準用。	

区分	工種	測定項目	規格値	
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
舗 装 工	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±50	—
		厚 さ	-45	-15
		幅	-50	—
	アスファルト舗装工 (上層路盤工)	厚 さ	-30	-10
		幅	-50	—
	アスファルト舗装工 (表層工)	基準高▽	±50	—
		厚 さ	-9	-3
		幅	-25	—
	平坦性	3m ² ロータリメータ(δ) 2.4mm以下直読式(足付き)(δ) 1.75mm以下		

単位: mm

測定基準	測定箇所	摘要
全測点を測定。		測定結果表(標準4)
全I Pを測定。		図面に朱書きする
全I Pを測定。		
測点及び変化点毎に測定。		測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。		出来形図については、全測点を朱書きする 測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。		測定結果表(標準4)
センター及び両側で測定。		測定結果表(標準4)
施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。		
土木部の「土木工事施工管理基準」を準用。		

測定基準	測定箇所	摘要
基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。なお、40mに1箇所を層の上下差により測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は、測定値の平均値は適用しない。
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。なお、40mに1箇所を層の上下差により測定。		測定結果表(標準4)
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。		測定結果表(標準4)
		※維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。 ※区間長が100m未満の場合は平坦性を省略することができる。

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
舗 装 工	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±50	—
		厚 さ	-45	-15
		幅	-50	—
	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-30	-8
		幅	-50	—
	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	-10	-3.5
		幅	-25	—
		平坦性	コンクリートの硬化後3m ² オフレイヤーにより機械舗設の場合(δ) 2.4mm以下 人力舗設の場合(δ) 3.0mm以下	
		目地段差	±2	
	アスカープ	縁石工 (縁石・アスカープ)	延 長 L	-200
区画線	区画線工	厚さ t (溶融式のみ)	-0	
		幅 w	-0	
		延 長	-0	

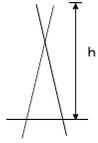
単位: mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。なお、40mに1箇所を層の上下差により測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。	※維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。 ※区間長が100m未満の場合は平坦性を省略することができる。	測定結果表 (標準4)
幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。なお、40mに1箇所を層の上下差により測定。		測定結果表 (標準4)
厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定。		測定結果表 (標準4)
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
1箇所/1施工箇所		測定結果表 (標準4)
各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		測定結果表 (標準4)
1施工箇所毎。		

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値
保安 林 整 備	植栽	面積	-0 ha
		植栽本数	-0 本
	防風工(木製)	杭径	-10%
		高さ	-50mm
		延長	-200mm
	防風工(竹資)	高さ	-50mm
		堆砂工	延長
	下刈り	面積	-0 ha
	枝落とし	面積	-0 ha
		枝落とし高さ	-0 m
	除伐	面積	-0 ha
		除伐率	-0 %
本数調整伐	面積	-0 ha	
	伐採本数	-0 本	

単位: mm

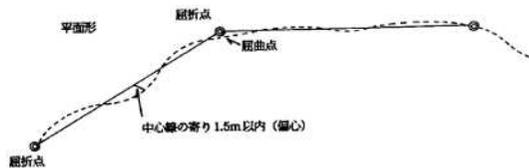
測定基準	測定箇所	摘要
全面積を測定する。0.01ha単位。	植栽箇所の周囲。植栽箇所により樹種を変更している場合は樹種ごとの植栽箇所の周囲。樹種ごとの区分。植栽不能地(除地)の区分。	出来形図、様式1
施工地内の任意の標準地100㎡(10×10)を設定して、その区域内の全植栽本数を計測する。	植栽箇所ごとに1.0ha当たり2箇所以上。ただし、1ha未満は1箇所以上。	様式2
延長は1施工箇所毎。その他のものについては4.0mに1箇所とし、4.0m以下の場合は2箇所とする。		測定結果表(標準4)
延長、高さは1施工箇所毎		測定結果表(標準4)
全面積を測定する。0.01ha単位。	下刈り箇所の周囲。 養生被覆車ごとの箇所の周囲。	出来形図、様式1
全面積を測定する。0.01ha単位。	枝落とし箇所の周囲。	出来形図、様式1
施工地内の任意の標準地100㎡を設定して、その区域内の樹木全部の枝落とし地上高を測定する。	1ha以内1箇所。1~3ha未満2箇所。3ha以上3箇所。	様式3
全面積を測定する。0.01ha単位。	除伐箇所の周囲。	出来形図、様式1
施工地内の任意の標準地100㎡の根径3.0cm以上の成立本数(A)と伐採本数(B)を測定 伐採率 $B \div A \times 100 = \%$	1ha以内1箇所。1~3ha未満2箇所。3ha以上3箇所。	遡木本数記録簿 様式4
全面積を測定する。0.01ha単位。	除伐箇所の周囲。	出来形図、様式1
施工地内の任意の標準地100㎡内の着手前の胸高直径6.0cm以上の成立本数(A)と伐採本数(B)を測定 伐採率 $B \div A \times 100 = \%$	・標準地 1ha以内1箇所。1~3ha未満2箇所。 3ha以上3箇所。 ・施工区域内の伐根にナンバリングテープを添付し全伐採本数を測定。	遡木本数記録簿 様式5

出来形管理の測定項目及び規格値

区分	工種	測定項目	規格値
森林整備	歩道	延長	-10 c m, +20 c m 但し全体延長は設計値以上
		屈折点方位又は外角	コンパス 1度 トランシット 30分
		屈曲点	中心線寄り 100 c m以内
		屈折点間の線形	中心線寄り 150 c m以内
	縦断形	基準高	±20 c m
	横断形	幅	幅-5 c m
	路面工	幅	-5 c m
		厚さ	-20%
	その他の施設		関連工種を準用
	自然林造成, 改良 森林造成 林相改良	植栽工	面積
樹高			-0 c m
幹周			-0 c m
枝張			-0 c m
本数			-0 本
生育基盤盛土工		基準高	-50
		法長	法長<5m -100 法長≥5m -2%
	幅(W)	-100	

※ 保安林整備事業の測量設計及び出来形管理の留意事項

- 1 測点は原則として屈折点又は屈曲点とする。
- 2 屈折点間に土量等の積算のため間点が必要な場合は偏心の範囲に+杭を設ける。
- 3 屈折点間の平面, 縦断形は直線形ではなくてもよいが, 地形に沿った平面, 縦断形で出来栄のよい歩道を設置すること。
- 4 土量又はその他の数量の出来高は設計値(全体)以上であること。



単位: mm

測定基準	測定箇所	摘要
全測点及び間点。		標準4
		出来形図表
全測点及び間点		標準4
横断図の箇所		出来形図
40m程度以内に1回。		標準4
40m程度以内に1回。		標準4
		標準4又は出来形図
全面積を測定する。0.01ha単位。		様式1, 出来形図
森林土木共通仕様書第10章第2節の10-2-2	小苗木については, 樹種ごとに, 100本に1本以上の割合で, 中・大苗木は, 樹種ごとに10本に1本の割合で測定する。又, 苗木の植栽状況を検査する。	出来形平面図
施工延長40mにつき1箇所, 延長40m以下のものは, 1施工箇所につき2箇所測定する。基準高は, 各法肩で測定。		測定結果表(標準4) 出来形図